

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年3月26日

【2018年3月17日～2018年3月23日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、米国の通商政策への懸念から市場のリスク回避姿勢が高まったことや、ブラジル中央銀行が利下げを行った上でさらに金融緩和プロセスの継続を示唆したことから、対米ドルおよび対円で下落しました。また、2年国債金利は大幅に低下しました。

ブラジル中央銀行は21日（現地、以下同様）、政策金利を市場予想通り0.25%ポイント引き下げ、過去最低の6.50%とすることを決定しました。また、COPOM（金融政策委員会）の声明文では、インフレ率が中央銀行の目標レンジに戻る時期が遅れるリスクを低下させるため、次回5月のCOPOMにおいても適度の追加緩和が適切であるとの見方が示されました。こうした金融緩和プロセスの継続は市場も織り込んでおらず、ブラジル・レアルの下落要因および2年国債金利の低下要因となりました。

23日に発表されたインフレ率（IPCA-15）は前年比2.8%となり、2月の実績および市場予想の双方を下回る低調な水準となりました。

政治情勢に関しましては、22日に連邦最高裁がルラ元大統領の人身保護令適用についての審理を行いました。しかしながら、適用の可否についての決定は4月4日に持ち越され、それまでの間は同氏が収監されないことを保証する暫定令が出されました。

【2】今週の見通し

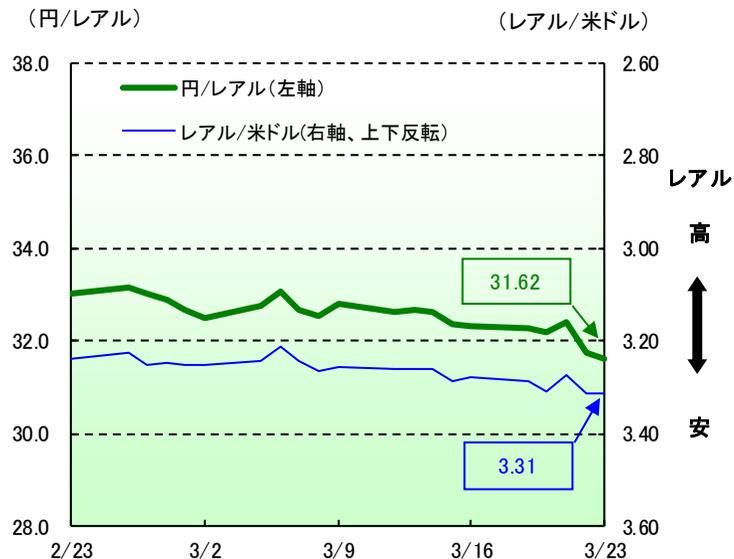
今週は27日にCOPOM議事録、29日にブラジル中央銀行の四半期インフレ報告が発表されるなど、金融政策に関連したイベントが続きます。とりわけ後者におけるインフレ見通しの修正は、今後の金融政策の方向性を占う上で大きな意味を持つ可能性もあり、市場の注目が集まります。

経済指標につきましては、基礎的財政収支など2月分の財政関連指標が発表されます。年金改革法案が事実上先送りされ、財政悪化が意識されやすい状況下であるため、市場予想を上回る悪い数字には注意が必要です。

なお、30日はGood Friday（聖金曜日）のため、ブラジル金融市場は休場となります。

【ブラジル・レアル 為替推移】

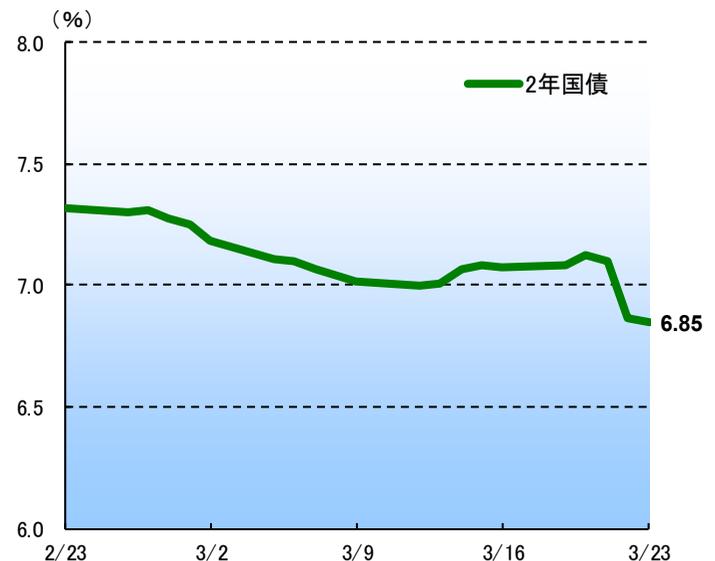
（2018年2月23日～2018年3月23日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

（2018年2月23日～2018年3月23日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212（営業日の9:00～17:00） HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>